

4 「全国一斉集中女性のための労働相談」
周知街頭行動



▲よろしくおねがいします。

「アジア・アフリカ支援米」
カンボジア・クックマ孤児院到着



▲支援米が到着し喜ぶクックマ孤児院の子供たち



▲参加者全員で



▲子供たちのすてきな笑顔が届きました。

一昨年労福協でカンボジアへ視察に行きました。そこで、訪問・視察した30人弱の規模の日本人スタッフが中心に運営されている「クックマ孤児院」にカンボジアへ送付しているアジア・アフリカ支援米3,000Kのうち、約1000Kを「クックマ孤児院」へ送ることが、連合、労福協、労金、全労済、生協の間で確認され、本年、1月15日にに出發した2回目の支援米が4月4日に到着し、笑顔の写真と、お礼と感謝の言葉が返送されてまいりました。紙面を借りて、紹介します。アジア・アフリカ支援米の運動に関係する多くの皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げます。

6月3日(日)11:30～連合長崎が「全国一斉集中女性のための労働相談ホットライン」を開設(6/15～6/16)するにあたり、周知を主な目的として、四ヶ町アーケード(島瀬公園前)において、13人の参加の下、街頭行動を行いました。

参加された皆様お疲れ様でした。

周囲に困った方がおられましたら、声をかけて周知をして下さい。

宜しくお願いします。



JTUC
SASEBOCHIKYO

連合長崎

させぼ

NO. 30
連合長崎 佐世保地域協議会
〒857-0851
佐世保市稲荷町2-28
Tel 0956-20-0565
Fax 0956-20-0567
Email: sasebo-rengo@hop.ocn.ne.jp
2018年7月1日
発行責任者: 鴨川博明

アジア・アフリカ支援米・田植え開催



▲子どもたちががんばりました(佐世保)



▲参加者全員で(佐世保)

「北松ブロック田植え」



▲参加者全員で(北松ブロック)

6月10日(日)10:30～十文野町、情報労連・中川氏宅水田に於いて、組合員とその家族55人の参加をいただき、「アジア・アフリカ支援米田植え」が開催されました。

最初に、菊永議長より「本日は、第10回の記念する田植えとなりました。連合長崎・宮崎会長も激励に駆けつけていただきました。一昨年よりアジア・アフリカ支援米の支援地に、<クックマ孤児院>にも送付させていただいている。今後とものご支援ご協力をお願いする」と主催者代表挨拶、続いて、連合長崎宮崎会長より、「アジア・アフリカ支援米の活動にご支援いただいている皆様に感謝申し上げます。また、子ども食堂にも支援を広げようと検討している旨の話もあり、支援が求められました。続いて中川氏より、注意事項を含めて挨拶がありました。田植えを終えて、中川氏の庭をお借りして、参加者全員でバーベキューを楽しみました。田植えの準備、昼食のバーベキューの準備と中川家の皆様をはじめ、多くの皆様の協力を頂き、けが人もなく無事、支援米の田植えを終えることができました。

参加された皆様大変お疲れ様でした。

6月10日(日)10:00～協力農家(大久保耕次様)水田に於いて、組合員とその家族15人の参加のもと、「アジア・アフリカ支援米田植え」が開催されました。田植え終了後に、今年は雨の予報が出ていたため昼食は弁当での対応となりました。参加された皆様大変お疲れ様でした。

◎編集後記 H・K 長崎県も梅雨に入りじめじめした天候が続く中でしたが、アジア・アフリカ支援米の田植えが終了しました。初めて田植えを経験した子供たちもおられ、家族だんらんのひと時が過ごせたことと感謝申し上げます。新聞のニュースなどで、子供の虐待が報道されるのを聞くと、親子のふれあいを大切にできる環境も大事だと感じます。多くの皆様のご支援ご協力をいただき田植えを終えました、くっくまの子ども達も輝いて見えます。多くの皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げます。



▲主催者挨拶：菊永委員長



▲春闘情報交換



▲大田同盟友愛代表幹事の音頭でがんばろう三唱

5月28日(月)19:00～、玉屋文化ホールに於きまして、各単産代表者25人の参加により、「2018春闘中小・地場労組代表者会議」を開催しました。

最初に、主催者を代表して菊永議長より挨拶があり、続いて鴨川事務局長より、連合の集計等について報告を受けました。その後、参加いただいた中小地場の各労組より取り組み状況についての報告と情報交換を行い、交流を深めて地場労組代表者会議を終了しました。



▲観客席応援風景

5月27日(日)13:00～福岡ヤフオクドームに、連合構成組織組合員24人で、野球観戦に行きました。

最初に、唐津の「うまかもん市場」にて、弁当や飲み物、つまみ等を購入して、野球観戦に備えました。

今年は、昨年に引き続いて参加された方や家族で参加をされた方など多くの皆様に、ソフトバンクホークス対楽天イーグルス戦を楽しく観戦していただきました。

今年は、ドームの駐車場を使用することができ、帰りのバスでは、車中レクレーションも行いながら、昨年に比べ早く市内へ戻ることが出来ました。

これからも積極的に取り組んでいきますので、構成組織のご協力を、よろしくお願いいたします。



▲「台北市私立義光育幼院」において

歓迎のダンスパフォーマンスおよび記念品贈呈

▲「懷徳風筆緑地育幼院」において

院のスタッフおよび子供たちと全体で記念写真

1. 「台北市私立義光育幼院」視察報告 H30.5.23

連合佐世保地協事務局長 鴨川博明

最初に、標記院の林氏から歓迎の挨拶があり、温かく受け入れていただきました。

当日は、「附設世美家園」の在住の18歳以上の障害のある方々が、ダンスのパフォーマンスを最初のほうで披露をしていただき、私たち訪問団の歓迎をしていただきました。

その後、記念品、お土産等の贈呈を行い、宮崎会長より受け入れに対するお礼と感謝の挨拶が行われました。院側からは、感謝状が贈呈されました。

つぎに、施設の見学を行い、その後、食堂にて、歓談を行い、お礼を述べて院を後に失礼致しました。

2. 懷徳風筆緑地育幼院視察

最初に、陳玉秀院長より、歓迎の挨拶がありました。

陳院長からは、本日宮崎会長他皆様おいでいただき大歓迎いたします。この貴重な時間を大切に、皆様の意見をいただければ幸いですとの挨拶がありました。

宮崎会長からは、日本の西の端の長崎から参りました。私たちは労働者とその家族の幸せのためにいろいろな活動をしています。このたびは、台湾の歴史と文化を学びに参りました。本日は快く受け入れていただき感謝申し上げますと、お礼の挨拶がありました。

その後、施設職員の案内で、施設を見学した後、中庭で子どもたちとの交流を行いました。最初は、子どもたちが音楽に合わせてダンスを披露。次に、長崎からの参加者で「童謡」を披露。その後プレゼント、お土産を贈呈しました。

院側からは感謝状が贈呈されました。子どもたちは、広い庭内を元気いっぱい走る姿が、のびのびと育てられている環境が感じられました。

最後は、職員・子どもたちとハイタッチで感謝とお礼を申し上げ院を後にしました。

3. 視察全体の感想

今回、家庭環境や障害のある子どもたちを中心とした施設を訪問させていただきましたが、国や自治体の支援も感じられ、地域と連携した生活が出来ているという印象を受けました。

施設を創立した先達が、恵まれない子どもたちのために、資産を処分して施設を設置する、なかなか出来ないことを行い、また継続して伝承していくことがすばらしいと感激しました。

院で生活する子どもたちは元気いっぱい、私達訪問団が元気をもらって帰ってくる事が出来ました。日本では子どもたちが両親から虐待にあたり幼くして命を落としたり、道徳と言う観点、台湾を見習い地域と連携した環境の創造を教育に活かさなければならぬと感じるところが多くありました。

また、県労福協を中心に参加された皆様にも感謝を申し上げます、ありがとうございました。